

## 腸管出血性大腸菌（<sup>オー</sup>O157）感染症患者の発生について

### 1. 患者の状況

- ・患者 砺波厚生センター管内 男性（20歳代）
- ・経緯 8月12日（日）発熱、下痢、嘔吐  
8月13日（月）医療機関を受診、入院、検便実施  
8月20日（月）医療機関にて腸管出血性大腸菌 O157（VT1,VT2）検出  
腸管出血性大腸菌感染症と診断
- ・症状 現在、快復している

### 2. 患者及び感染源調査

- ・患者の喫食状況調査及び行動調査を実施
- ・患者家族等接触者の健康状況調査を実施

### 3. 対応

- ・患者自宅等の消毒を指示
- ・患者及び患者家族等に対し、衛生教育を実施

### 4. 予防対策の周知をお願いします

- ・調理の際、食事の際、トイレの後など手洗い消毒を徹底しましょう  
動物とふれあった後にも、必ず石けんを使用して十分に手洗いをしましょう
- ・肉類や加熱する食品は十分に加熱しましょう  
特に食肉については、生食を避け、中心部まで十分加熱するようにしましょう  
※生食用の牛レバーは提供・販売されていません。
- ・生野菜は流水でよく洗いましょう
- ・調理器具を使い分けましょう  
生肉が触れたまな板、包丁、食器等は、生野菜や加熱済み食品を汚染しないよう、  
十分洗浄消毒してから使いましょう  
※焼肉やバーベキューを楽しまれる場合は、生肉専用の箸やトングを使用し、食  
べる時の箸と使い分けをしましょう

■下痢等の症状がある場合は、速やかに医療機関を受診し医師の診察を受けましょう

### 5. 参考

（平成30年）

（平成29年：同時期）

(1) O157	9名（本事例を含む）	11名
(2) O26	9名	8名
(3) O111	2名	0名
(4) O128	2名	0名
(5) O118	1名	0名
(6) O91	0名	3名

### 【報道機関各位へお願い】

報道に際しては、患者様御本人及び御家族のプライバシーに十分な御配慮をお願い致します。